KZOO Radio 出演

ヒロ高校でのコンサート

ヒロ高校の生徒たちのまなざしは熱かった

Hiroyuki Ito夫妻

届け鎮魂の歌　上間綾乃（沖縄出身の歌手）

右
ウチナーグチで「さとうきび畑」を歌う上間綾乃さん ＝ 16日、東京・丸の内のコットンクラブで

左
「さとうきび畑～ウチナーグチ～」のCDジャケット

大震災支援きっかけ

「さとうきび畑」島言葉に
平和と復興の風 ざわわ

ざわわ、ざわわ―。太平洋戦争で地上戦があった沖縄の戦死者をしのぶ名曲「さとうきび畑」がウチナーグチ（沖縄の言葉）に訳され、地元出身の歌手上間綾乃さん（29）が歌って静かな広がりをみせている。東日本大震災の被災地支援をきっかけにした取り組みで、平和と復興を象徴する歌となりそうだ。

【2015年8月26日　東京新聞の記事より】

終戦記念日の翌日、東京・丸の内のジャズクラブ。「戦後七十年ですが、本当の意味で戦争は終わっていないのかもしれない。その思いを声に、歌にしなければ」。上間さんが語り、歌い始めた。

「広（ひる）さる　をぅじ畑（ばたき）や」「風（かじ）が通（とぅー）ぬ抜（ぬき）いーる　びけぇーじ」…。悲しみをたたえた繊細な歌声に、うなずいて聞き入る人、涙を流す人。終演後、CDを買おうと並んだ人は「ウチナーグチは分からなくても思いが伝わった」と熱っぽく話した。

訳は「OKINAWA森と珊瑚のプロジェクト」の一環で、CD販売など収益の一部は戦火で失われた沖縄の森を取り戻す活動に使われる。主導するのは合同会社「緑の惑星プロジェクト」の高田淳生さん（57）だ。

さとうきび畑　太平洋戦争末期、沖縄の地上戦で父を亡くした少女が主人公。父の面影を探しにさとうきび畑に行き、通り抜ける風の「ざわわ」という音を聞きながら、切々と悲しみを訴える。歌詞には「海の向こうから戦がやってきた」「鉄の雨にうたれ父は死んでいった」などの描写が登場する。NHK「みんなのうた」で、1975年にちあきなおみさんが、97年には森山良子さんが歌った。

音楽業界に携わる高田さんは、宮城県石巻市の小学生らの歌を収めたCDを緑化推進に活用する震災復興に取り組んできた。その中で「戦争で全て失った沖縄の人々は被災地のために何かしたいとの思いが強い」と感じ、福島と沖縄の子どもらの合唱も実現させた。

昨夏、沖縄全戦没者追悼式で流れる「さとうきび畑」を聴き「沖縄の言葉の方が思いは伝わる」と考えた高田さんは、作詞作曲した寺島尚彦さんの遺族に提案。寺島さんが伯父と大学の同級生で、同じ音大で教えていたことも判明、寺島さんの妻も「まるで運命」と訳すことを快諾したという。

寺島さんの次女夕紗子（ゆさこ）さん（45）は「平和の祈りを発する機会で意義がある。ただ、父は悲しみの歌が必要ない時代を願っていた。現状を思うと心が揺れます」と語る。

訳した沖縄県浦添市文化協会の玉城弘さん（72）は「鉄の雨にうたれ　父は死んでいった」との歌詞に、戦争で亡くなった自分の父親を重ねた。艦砲の雨に父が食われた（訳は「父（すぅー）やうちゅ喰（くぁぁー）ってぃ」）という表現で「肉も骨も吹っ飛ばされた」との思いを込めたという。

上間さんはこの歌を、浦添市で九月十九日に開かれる島言葉のイベント「第二十一回しまくとぅば語やびら大会」で、来場者と共に歌う予定だ。上間さんは「沖縄や全国の人たちに愛されてきた歌。先輩たちの思いを受け継ぎ、一人でも多く世界の人に伝えたい」と話した。

「さとうきび畑～ウチナーグチ」のCDは千円。問い合わせは、緑の惑星プロジェクト＝電03（3405）1410

2015年12月7日ハワイ州のハワイ島ヒロ市にあるハワイ州立ヒロ高校で「Sound of Peace 2015」を開催いたしました。平和の思いを語り、「さとうきび畑」ウチナーグチの思いも語り、アメリカだからではく日本だからでもなく、平和を思う次世代たちを見て、国境も人種も越え、沖縄から持ってきた「命どぅ宝」が手渡されたことを確信しました。平和のために、平和の歌を沖縄からパールハーバーのあるハワイに持って行って、たくさんの高校生たち、そして大学生たちの平和を思う心と共鳴できたこと、このイベントに参加して舞台を見つめる学生たちの目は澄み切ってそして輝いていました。この日のことは、多感な世代の彼らにとって、おそらく生涯忘れることのない出来事として、心の中に残っていくように思います。また、高齢になった日系二世の方たちの戦争という苦難の時を、アメリカという国の中で乗り越えてきた歴史を見つめることで、次世代の若者たちに平和のメッセージをバトンのように渡せたことを、感慨深く思い、出演者及び関係者各位に心より御礼を申し上げます。

平和の祈り　**Sound of Peace 2015**　戦後70年

Okinawa to Hawaii

「命どぅ宝」

主催:緑の惑星プロジェクト、株式会社ジャパンエクスプレスチャイナ

実行委員会:ハワイ大学ヒロ校日本語学科、日本学生協会
後援:沖縄県文化協会

海外日系人大会

日本の歩みと海外日系人

The 56th Convention of Nikkei and Japanese Abroad

戦後70年

平成27年10月27日(火)・28日(水)・29日(木)東京/日本

日系少年野球チームバンクーバー新朝日

13歳～15歳の日系カナダ人15選手からなるチーム

Dear Michi

バンクーバー新朝日軍ピッチャー・Joe Sinclairと
バンクーバー朝日軍・嶋正一さん

おはようございます。野球のためには、アメリカか日本のどちらか、と最近強く思うようになりました。息子は、新朝日軍の遠征のあと、心が日本のほうに傾いてきています。カナダは13歳以上の野球人口はリトルリーグ以降、激減しますので、野球を続けること自体が家庭にとっては金銭的に難しいのです。リトルリーグを卒業してみて、やっとわかりました。よく、先輩野球ママさんがおっしゃっていましたが、以前はあまり実感が湧きませんでした。またご連絡します。

むつみ（Joe Sinclair 君のお母さん）

Dear Michi

その後いかがでしょうか？さて、上西さんの娘さんから連絡があり、上西元朝日チーム選手が、トロントの日系人協会から2016年"桜アワード"を受賞されました。

Hello to our Extended Asahi family! This is just to let you know that Gary Kawaguchi, the director of the Toronto Japanese Canadian association flew to Kamloops to present Dad with the Sakura award. It had arrived a few days before Mr. Kawaguchi and so, it was there when he arrived. They interviewed Dad and taped the formal Presentation that will be shown at the fundraiser dinner on April 16, 2016.

Apparently there will be many representatives from our government in Ottawa, so, Dad is happy he isn't going! Dad will be bringing the Award with him when he arrives on the 17th. So, we will take some pictures and send them to you. He will then donate it to the Nikkei Centre.

Take care! J

嶋　洋文

授賞式は来年の4月にトロントで予定されています。